

“働き続ける”を支える

～中小企業の取り組み～

有限会社奥進システム 代表取締役 奥脇 学



レジュメ

- 弊社の紹介
- 弊社の活動、自己紹介
- 企業の困り感
- ネットワークの重要性
- 事例



弊社の業務紹介

- Web技術を利用した業務管理システム開発業
- 開発事例紹介
- 複数のパソコン、スマホ、などで使用するのが得意
- どこからでもシステムを使える便利さが受けてます



一緒に はたらく 事例紹介

- 社員7名中5名障がい者
- 身体障がい者1級(頰椎損傷):入社8年目
- 身体障がい者1級(頰椎損傷):入社7年目
- 身体障がい者(じん臓、1級):入社4年目
- 精神障がい(2級):入社3年目
- 精神障がい(2級):入社2年目
- 実習は福祉施設、支援学校、関連団体から受入れ
(発達障がい、精神障がい、知的障がい)
- 奥進システムの配慮

弊社の活動

- 会社の理念
- 助成金情報の発信
- 雇用事例のアピール
- 「ついで」に「うえぶサポ」
- 「うえるサポ」の可能性
- 社会的課題で出来ること「SPIS」



自己紹介

- 大阪府中小企業家同友会 障がい者部 副部長
- 社団法人 全国重度障害者雇用事業所協会 会員
- 独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構
重度障害者雇用地方相談協力員
- 大阪府障がい者雇用促進センター
障がい者雇用支援員



企業の困り感

- 企業ってひとくくりでいうけれど
- 立場、事情、風土
- 障がい者雇用は？
- 企業アセスメント
- 企業が求める人材とは
- 企業の個別支援計画を



ネットワークの重要性

- 障がいのある人と一緒に生きていく
- 入口支援、出口支援
- 気軽な相談先
- 求める部分を明確に
- 今こそ助け合いの精神を
- 一緒に考える仲間として



事例

社会的課題

- 障がいのある方の就労継続が難しい
- 自分の状態がわからない

- 就労定着支援システム「SPIS」

解決

- 毎日の状態をモニタリング
- 配慮ポイントを判断する

ネットワークから生まれたSPIS

- SPISの活用について、支援機関、専門家のご意見
- お互いの理解、信頼関係の構築
- 最初は一つから、話すきっかけに
- 不調の原因を一緒に探そう
- 慣れてきた時が要注意、不調のサインを見逃さない
- 2年ほどでお互いの理解は深まる

一つ一つのこの取り組みが、精神障がいの方々が働きやすい社会づくりになれば、とても幸せ。

最後に

ご清聴ありがとうございました。

